



第2時

(2)

みくしくんは、お誕生日にゲーム機を買ってもらいました。

「わーい！ これ欲しかったんだ～！」

ずっとゲーム機が欲しかったみくしくんは、大喜びです。

(3)

「ねえお母さん、遊んでもいい？」

みくしくんは言いました。

「いいわよ。でもゲームで遊ぶ時のお約束を決めましょう。
ゲームでは毎日遊ばないようにしましょうね。」

「うん。お勉強もするし、外でも遊ぶから、守れるよ。」

「それから、時間は1日30分までにしましょう。」

「はい、お母さん。時間の約束を守って遊びます。」

「みくしくん、偉いわね。」

お母さんはにっこり笑って、みくしくんをほめました。

(4)

ゲームで遊び始めたみくしくん。

楽しくて仕方ありません。

「ゲームっておもしろいなあ」

気がつくと、時間がどんどん過ぎていきました。

「みくしくん、宿題はしたの？」

みくしくん、お風呂は入ったの？」

お母さんの声が聞こえましたが、みくしくんは

ゲームに夢中でお返事をしません。

(5)

ずっとゲームで遊んでいた みくしくん、
ねむくなってきました。

「あれ？ お風呂に入るのを忘れてた。

あれ？ 宿題もしていない。

でもいいや、明日の朝、しよう。」

みくしくんはそう言って、ゲームをやめて眠りました。

(6)

次の日の朝、お母さんがみくしくんを起こしにきました。

「みくしくん 起きなさい！」

学校に遅れますよ。いつまで眠っているの？」

みくしくんは、お寝坊をしてしまったのです。

(7)

「タイヘンだ、タイヘンだ！」

みくしくんは、飛び起きて、慌てて学校へ行く準備をして
家を飛び出しました。

「タイヘンだ、学校におくれちゃう！！」

(8)

学校に着くと、先生がみくしくんに言いました。

「みくしくん、今日は宿題をみんなの前で発表してね。」

「え?!」

みくしくんは驚きました。

そういえば、今日はみくしくんが宿題をみんなの前で

発表する日だったのです。

(9)

「どうしよう・・・宿題をしないで学校へ来ちゃった」

みくしくんは 悲しくて悲しくて、

涙がたくさん 出てきました。